

日本気象学会春季講演会のお知らせ

今回は、大気汚染研究全国協議会との共催で、環境問題に関連するものとして、大気汚染に関する問題をとり上げました。会員多数の参加を期待します。
(講演企画委員会)

会 期：昭和50年3月14日(金) 10時-17時
会 場：気象庁講堂(東京都千代田区大手町。地下鉄東西線竹橋または千代田線大手町下車が便利です)

講演内容：

- ・午前(10時-12時)：総合報告
 - 1) 横山長之(公害資源研)：大気境界層における拡散について
 - 2) 大喜多敏一(国立公衆衛生院)：大気中における

汚染質の挙動

- ・午後(13時-17時)：光化学大気汚染に関するシンポジウム

(話題提供)

- 1) 秋元肇(公害研)：基礎的な光化学反応について
- 2) 福岡三郎(東京都公害研)：大気中における生成物の分布と気象との関連
- 3) 木村富士男(気研応用)：光化学大気汚染のモデリングとシミュレーション

天気編集委員会からのお知らせ

1. 本誌の頁数を削減しています(本文が20巻は700頁、21巻は648頁)。これは物価上昇のもとで、総会で承認された予算限度内で本誌の発行を続けて行くため、やむなく取った措置です。当委員会では、前の期に駒林委員の企画で充実した解説欄をはじめ、各欄の内容をより良いものにする努力を続けますが、次の点について会員の御協力をお願いします。

投稿原稿はなるべく簡潔に・とくに論文は、図版の大きさと枚数などに充分気をつけて下さい(本誌16巻4号投稿論文の図の書き方、17巻12号調査研究の道しるべ参照)。

2. なお頁数の削減のため、論文投稿から印刷までの時間が延びておりましたが、今後当分の間、論文に多くの紙面をあてることにし、遅れを取戻す方針です。また本誌の発行や別刷の発送は、今後は遅れない見通しが立ちました。

3. 本誌の発行は毎月月末です。そのため学会日よりなど急ぎの原稿は、印刷1頁以上のものは前月20日まで、印刷1頁以下のものは当月5日までに編集委員会に着くようお送り下さい。遅れたものは次号まわしとします。

4. なお今期の編集委員の分担は次のとおりです。編集事務：巽(幹事)、犬飼、清水、住、本母の各委員。(投稿原稿の保管、編集等の事務的な事項は巽または住委員に問合せればよい)。解説欄：滝川委員、質疑応答欄：中山委員、用語解説：関根委員、海外だより：竹田委員、GAPR 関係：広田委員、本だな：樋口委員、シンポジウム欄：田中委員、支部だより・会計：三谷理事。その他の事項は編集委員長。なお新田委員は1月から当分の間ジュネーブ駐在となるので、海外の気象界のニュースを本誌に送っていただく予定です。

5. 今月から沖縄地区編集委員に糸数昌丈氏(沖縄気象台)が就任されました。